森林塾通信

発行
KOA森林塾
（事務局）
TEL 0265-70-7065
編集　早川　清志
題字　島崎　洋路

通年コース第十五・十六回開催報告
「炭焼き・保科山林見学」
『人類との長～いお付合い、炭』

人類の炭利用の歴史は、火を発明したころからと思われますが、当初はたき火で残った消し炭の利用がほとんどで、人為的に炭を作るといったこともなかったようです。

日本では、弥生時代前期に青銅や鉄製の農器具が使われ始めると、それら金属の加工用に炭が作られるようになりました。数世紀前から鉄器を作っていた大陸から渡ってきた技術だったのかもしれません。火持ちは悪く、爆ぜたりしても構わないので、温度が上がり易いうえに火付の良いクリやマツなどの炭が好都合でした。

その後仏教が伝来し、法隆寺などが建立された奈良時代になると、暖房用や厨房で使われる炭が作られるようになりました。燻ったりせず、火持ちの良い、今でいう高品質の炭、堅炭が好まれました。

この時代に炭の二極分化が始まるわけですが、最大の炭消費事業が大仏鋳造でした。東大寺の大仏様、材料としては銅が500トンほど、スズも8トン、メッキ用の金は430キロ、アマルガムを作るための水銀が250キロ程度と記録に残っています。金メッキは熱で水銀を飛ばす方法でおこなったようですが、中毒になった作業者がたくさん出たのではないかと思います。これら金属加工、鋳造に使った炭は最低でも800トンと推定されています。当時の山林の蓄積はどのくらいかわかりませんが、数十～百ヘクタールの山林の木をすべて伐採して炭を作らなければならないほどの量であったと想像できます。

太巻状の煙道の周りにマツの炭材を詰める

3段目の上に焚き付けを乗せて

湯河原から馳せ参じた長老による点火

同じころから始まった『たたら製鉄』も大量の炭を必要としたようです。最盛期の江戸時代の中ごろ以降のたたらでは1回の操業で炭と砂鉄をそれぞれ12トン程度使って1トンの玉鋼を生産していたようで、これを年間60回ほど操業していました。1回の操業で必要な炭はおよそ1ヘクタール分の木材から作られますので、年間に60ヘクタールの皆伐が必要でした。業務用のたたら製鉄は現在は行われていませんが、これと似た『たたら吹き』という製法が日本で唯一、島根県奥出雲町で行われており、日本刀の素材として必要な玉鋼が生産されています。

（参考：岸本定吉著「炭」）

翌朝の炭出し47kgのマツ炭

これは何に例えれば良いのだろう

また細く道はつづけり

通年コース第15・16回
11月27・28日（金・土）
炭焼き・山林見学

野底の山林から切り出したアカマツを炭材として、473キロを投入して47キロのマツ炭が出来がりました。製炭率約10％。たたら製鉄にもバーベキューにも向く、火持ちは悪いが火付が良く、温度が早く上がる炭です。40日ほど乾燥させてありましたので、夜の11時少し前に窯止めが出来ました。良い子達の忘年会もこの時間には終わり、ぐっすり就寝。

翌朝炭出しの後、伊那市長谷にある保科先生のカラマツ林と、信州大学手良沢山演習林のヒノキ林を見学しました。

参加者／有賀さん、小池さん、渋沢さん、水津さん
スタッフ／早川

専門コース第4回開催
11月20・21日（金・土）

今年度最終回の総まとめ。金鳳寺の込んだヒノキ林でしたが、常連の3人はもう大丈夫。そして安全衛生教育のお二方は今後の精進に期待です。

参加者／小林さん、佐藤さん、松崎さん、立木さん、西尾さん
スタッフ／川島、早川

社長のクサビ伐倒、完璧!!

次回の予定
通年コース第17・18回
3月4・5日（金・土）
間伐復習・きのこ菌打ち・修了式

本年度の最終回です。

屋久島紀行

Te wacca Ucaさん　いなか浜

自然や森を愛する人々が一度は訪れたいと願う屋久島。２０１５年10月ついに長年の夢が叶いました!!

この旅の目的は自然豊かな森の中に入らせていただき本来の自分自身に還るということと、もう一つ私にとって大切な目的、それは、森人という言葉がピッタリな、お二人との再会でした。

森人さん達に初めて会ったのは２０１２年のこと。当時は大好きなネイティブアメリカンの儀式に参加し、アメリカのパワースポット、セドナと国立公園を巡る旅の準備に胸を膨らませている頃でした。そこの友人から「屋久島の木を磨くワークショップ」のお知らせメールをもらい＊屋久島＊の文字にココロ弾ませた私は早速申込みをしました。そのイベントを主催するご夫婦こそ、私の屋久島への想いを倍増させた森人さん達でした。

自然と調和した生き方を実践し自然や動物、植物を心から愛するお二人です。今回の旅は、新たな人生の道標となった「森の旅人」高田夫妻のツアーを通して屋久島レポートを書かせていただきました。

まずは簡単にお二人のプロフィールをご紹介します。高田健太さんはアメリカ、CSUFにて生態学を学び、在学中に世界一大きな木ジャイアント・セコイアと世界一高い木レッドウッドに出逢い「樹」に目覚める。帰国後、尾瀬にて日本の「自然保護」に触れ、２００１年「縄文杉」に出逢うため屋久島を訪れる。そして島の「土」になることを決意する。

そして奥様の奈央さんは11歳までブラジル、サンパウで育ち、帰国後インターナショナルスクールへ通い、アメリカへ留学。CSUFにて言語学を学ぶ。お気に入りは『ヨセミテ』『セコイア』『モニュメントバレー』『ブライスキャニオン』等々。

私は、お二人の森を愛するお人柄と屋久島の木を磨くワークショップで過ごした素晴らしい時間が忘れられず、また屋久島に行く際には絶対にお二人にガイドをしてもらうんだ!!と強く願っていました。

そうして２０１５年の抱負、『やりたかったことをやる』という決意からKOA森林塾と平行して、６月から予定を立ててきました。しかし、出発10日前ぐらいからほとんど引いたことのない風邪と、膝の古傷が復活し正座をするだけでも右膝が痛むようになります。

日頃から身体の治癒力というものを信じている私は、薬や病院へは滅多にお世話にはなりませんが、今回は信頼している無痛整体の先生を訪ね、手作りビワの葉エキスと共に神頼み！そうして先生やビワ様のお陰でほとんど咳が治りました。すでに前日、あとは膝痛だけ。

片道２９９０円の格安チケットの代償で前夜からの出発と、かなりの長旅になりましたが10月20日13時半、無事に屋久島へ到着しました。長旅の疲れがカラダを重くさせてはいましたが、無事に着いたことにココロは安堵と感謝で満たされていました。

翌日は待ちに待った奈央さんの白谷雲水峡ガイドです。5時半には宿へお迎えに来てくれるということで早々に眠ることにしました。ワクワクした気持ちから、飛び出すように早々に目が覚め、遂に待ち望んでいた奈央さんとの再会です！待ち望んでいたその瞬間はアッという間でした。温かいハグから始まり、話したいことがありすぎてどこから話たらいいのやらという、もどかしさからスタートします。

うっすらと空は白みはじめ生命の息吹きを感じ始める頃、白谷雲水峡へ到着。誰もいない駐車場に車を停め、まずはストレッチから。奈央さんは私の体調や膝の痛みを気にかけてくれながらも意識を痛みにフォーカスしないようにとアドバイスをしてくれました。私は意識を向けることによる物事や身体への影響をすっかり忘れていました。

『では、森へご挨拶をして入りましょう』と声をかける奈央さんを横に、私は夢に見た景色を目前にし、ちょっとだけ緊張した胸の高まりを感じながら、心の中で「こちらまでお導きいただきありがとうございます。これから森へ入らせていただきますのでよろしくお願いします」と深々と頭を下げ、ご挨拶しました。奈央さんに続き、誰もいない静かな森を歩み始めます。美しい水の音色と木々達に私の口元は緩み、ゆっくりとハートが開いていくかのよう。

そして、奈央さんは素敵なお話を聞かせてくれました。『朝日がのぼる30分前は一斉に鳥たちが鳴き出すでしょう。それは植物たちが一斉に酸素を吐き出す時間で、この時間が一番酸素濃度が濃い時間って鳥たちは知っているんだよね。

以前、末期患者の方が、東京で毎日朝日が昇る30分前に屋上に上がり、ずっと何ヶ月もこの空気を吸い、そして朝日を拝んだそう。そのおかげか癌は消えてしまった…。沖縄では【もし余命が短いと言われたら、だまされたと思って毎日朝日をみてください。身体に変化が起きますよ】と云われているの。私が森を案内するときは、お客様に早起きしていただいて、みんなにこの時間を体験していただきたい。鳥が一匹鳴きはじめてから、一斉に鳴きだす瞬間。1日の中で一番パワフルな時間です。』

『私達は自然に生かされている。感謝の気持ちになり、身体魂が喜びます。私達はこのことを忘れていますね。なので是非、呼吸に意識をおいてみてください。息を吐く時は屋久島の屋久杉の酸素が、金色の光が頭の天辺から入ることをイメージして、そして吐き出すときは足の裏から自分の不安、恐れ、ネガティブなモノがでていくイメージをしてみて。そうすると筋肉痛にならなかった人もいたわ。アメリカのネイティブアメリカンの方たちは息を吐く時に足跡にお花を咲かせるイメージをします。そうすると森も自分も元気になる。イメージはまさに魔法です。』

私はこのお話にとても感動しました。そんな、両手では抱えきれない程の大きなギフトを大切に胸にしまい、ふぅぅぅーーっと長く息を吐き、すぅぅぅーー、とお腹いっぱいにプラーナをいただきました。

【受取る喜び与える喜び】

いつも受取る喜びというものが主だった気がするのですが、与える喜びというものがこんなにも自分の中を幸せなキモチで満たしてくれるんだぁと深く感じた出来事でした。奈央さんはまさに与える人です。『森に入ると、森は無償の愛で元気や癒しをくれます。そして私達は感謝の気持ちがめばえ、自然と私達の周りや地球になにかしたいという気持ちになります。森は常に愛にあふれ、いつでも私達の力になってくれます。私も人に常に与えることが大好きです。その人の喜びの笑顔が見るのが大好きです。すべて自分でやったこと、行ったこと、放ったことはすべて自分に還ってきます。命も人間の心もすべて循環しています。な

にも考えず、常に人に与える人になるのが大好きです。ただ数年前はテイクが下手ですね～って言われて(笑)。今はテイク、頂くご好意をちゃんと受け取るようにしています。それも循環なんだって思いました。だから常になにも考えず、ギブすると、とんでもないすばらしい事が自然から、地球から帰ってきます。私達はよく山の頂上で不思議な光景に出会います。虹、雷が落ちる、大雨なのに晴れたり、等々。本当に素晴らしい光景に出会うことがあります。全てに感謝です。『

彼女は本当に自然や森からのギフトをいつもいただいています。なかなか出会うことのできない景色をしょっちゅうフェイスブックにUPしていて、森と奈央さんの愛の循環をいつも見ています。

私も森からのギフトでしょうか、とても不思議な体験をしました。それは何度か奈央さんが作ってくれた、森で過ごす一人時間でのこと。誰もいない清々しい空気のなか、私は五感を研ぎ澄ませるように静かに胡座をかきリラックスしていました。すると、何やら両膝がワサワサワサワサと微弱な振動を始めたかのように、ジワジワしてきます。それはとても柔らかく温かいイメージで私は森達が膝を治してくれているんだなと感じました。その後も森の中を歩けば歩くほど体がどんどん軽くなり元気になっていく感覚。カラダのエネルギーが物凄い勢いで循環していきます。冷え性で日頃冷たい手足は屋久島では常に温かく、寒い場所でもポカポカしていました。とても素晴らしい不思議な出来事でした。

屋久島の気は水により常に流れ続けているからでしょうか？蚊も住めない程、淀みのない森。私は屋久島にいる間ずっとこの魔法にかかっていたようです。カラダの不調はまったくといっていいほど出ませんでした。足を毎日マッサージしていたこともあるのでしょうが。しかし東京に帰り数日後、痛みが再開したことで、やはり魔法をかけられていたんだわ、と確信したのでした。

白谷雲水峡は標高６００ｍ～１１００ｍに広がる自然林で、緑豊かな植生と千年以上の樹齢を誇る屋久杉の巨木をみることができます。もののけ姫のイメージモデルとなった［苔むす森］は苔好きには萌えまくりの最高の場所でした!!赤ちゃんを優しく触るように苔を手のひらで撫で上げる感触は至福のひと時です。こうして奈央さんとのディープな時間を過ごし私の森に対する想いはさらに深いものとなっていきました。

黒味岳のブロッケン現象

次は健太さんの黒味岳ガイドです。今回は若い男の子と女の子も加わり賑やかな山登り！男の子とは共通の友人知人がいて面白い出逢いでした。

黒味岳は急な登りからスタートし、軽いアップダウンもありながらも私が大好きなロープを使ってよじ登る場所もいくつかある所でした。岩場を登るのは大好き!!白谷雲水峡より軽く息が切れましたが、みなぎるエネルギーが疲れをまったく感じさせません。ユーモラスな形で生命力溢れる木々達に、個というユニークな世界を観ました。みんな違って当たり前。人間もお互いの違いを尊重し合うことができたら素晴らしいなぁと感じました。自然からはいろんなことを学びます。

健太さんとは菌や発酵、腐植、奈央さんのこと等々話題はつきずにずっーとお話させていただきました。健太さんには特に【言霊】の素晴らしさや影響を教えてもらいました。プロフィールにあった屋久島の土になることを決意。という言葉通りの、まっすぐな、芯が通った純粋なお人柄。じんわり心地よい汗をかいたころ、日本最南端の高層湿原、花之江河で美しい景色に癒されながら休憩し、さらに山頂を目指し歩きます。キラキラ輝くお日様が黄金に輝くヒメシャラと色づいた紅葉を更に美しく彩ります。九州最高峰といわれる屋久島の宮之浦岳（１９３６ｍ）の南側に位置する黒味岳（１８３１ｍ）は九州百名山の１つに選定されている山らしく、山頂付近までスギ、ヤクシマシャクナゲ、ヤクシマホツツジ、ミヤマビャクシンなど低木が続き、屋久島のその他の山では味わえない植物たちが住んでいる珍しい山。

森林限界で高山植物も生えているので植物観察にも人気があるのだそう。宮之浦岳や黒味岳など屋久島中央の山岳地帯は世界遺産の森林生態系保護地域保存地区。登頂までもう少しという所で岩に登る鹿さんの白いハートのお尻を見つけたり、お猿の家族にも出会えました。こんなに高い所まで動物も登ってくるんだなとビックリしました！そして、いよいよ巨岩の頂へ。風が強く吹いてきたのを感じ、軽い高所恐怖症の私は少し足元を震わせながらも下を見ないように一歩一歩、慎重に進みます。

山頂に到着した私達は大興奮です!!絶景とはまさにこんな景色!!３６０度、空です!!天国みたい！（もちろん行ったことはないですが）そのうちジワジワとアッという間に霧がみんなを包み込みます！健太さんが今日はブロッケン見られるかもねと。太陽を背に白い霧に包まれながらそれぞれが自分の影をジーッと見つめ、ブロッケン現象を待ち望みます。私はほんの一瞬でしたが自分の影がうっすら虹に囲まれるのを見ることができました!!大興奮&大感動☆!!です。ふわぁーっと雲の上にいるような何とも不思議な感覚。広大な空との一体感。至福の微睡みのなか、冷たい感触のなかにも巨岩の温かさや優しさを感じます。

そんな最高の景色のなかお弁当タイム。竹の皮に巻かれたお弁当は、素材の味と晴天の絶景のなか美味しさをより一層引き立て、お腹も幸せ♡な満足感でいっぱい！どんなに美味しかったことか…。みんなで何度、サイコ～だ～と叫んだことか。本当に幸せすぎました。

帰りは険しい足元のなか、達成感やウキウキ気分で足取り軽く、最後にそれぞれの１人タイムで思い思いの時間を過ごしました。前半で立ち寄ったヒメシャラの紅葉が縁取る、美しい淀川では健太さんが用意してくれたおやつで一休み。みんなで透き通った美しく冷たい水に足を凍らせながら黒味岳ツアーの最後の余韻に浸るのでした。

さてさて、次はまだご紹介していなかった最後のガイドさんです。私が大分に住んでいた時に屋久島にいくなら絶対会った方がいい！とご紹介いただいた『アーストライブス』代表鈴木洋美さん。彼は横浜で生まれ18歳から5年間のプロキックボクサーを引退後、3年半に亘り世界中を旅しエチオピアを中心に独学で写真を撮り始めた写真家。高尾にご家族で住んでいましたが、震災後家族で転々とし、最終的に屋久島に呼ばれたそうです。屋久島に来るきっかけとなったのは何と高田夫妻！鈴木さ

んご家族とはすごく仲の良いソウルメイト!!大分にもかなりご縁があることを知り、私にとっても必然な出逢いだったようです。

彼には屋久島最終日、西部林道の森をご案内していただきました。屋久島は全てが世界遺産に登録されているわけではなく、世界自然遺産保護地域は島の中央に集中し、西部林道は山岳部から海岸線まで連続して世界遺産地域に指定された長さ約12㎞の林道。照葉樹の森で鹿さんお猿さんにもたくさん出会える場所です。

さっそく私達は車を置いて道路を歩きはじめます。前方にはノミ取り大会をしているお猿さん達。とてもリラックスしていたのに近づきすぎて怖がらせてしまいキィーキィーキィーと威嚇の嵐。洋美さんはとても冷静。目は合わさないでね、と伝えながら私を先にゆっくりその場を離れるように誘導します。緊張感漂うなか、ごめんなさいねと謝りながら、ゆっくりとゆっくりとその場を離れました。

屋久島は動物と自然、人間が共生している珍しい場所と言われていますが、ちゃんと距離を守らないといけないですね。反省しました。そうして、お猿さんたちを背に、道路から道のない西部林道の森へ入っていきます。ガイドさんもなかなか通らないルートらしく、更に今回は今までに行ったことのないルートで行くと！酷い方向音痴な私は行きたい所に行き、帰えってこられるのが不思議でしょうがないのですが。洋美さんがいることで気にせずゆっくりと森を感じながら歩くことができました。途中、鹿さんがいないと植生がどう変わるのかと調査している柵があり、2人ほど人がいましたがあとはずっーと森に2人だけでした。

人がいないというのは森自体のエネルギーだけを深く感じることができるのでとても貴重です。一眼レフをつい最近購入したばかりだったので、設定がよく分からないなりにパシャパシャと写真もゆっくり撮ることができました。洋美さんの写真は躍動感あふれる素晴らしい一瞬を、とても美しく表現していて、その感性に一気にファンになりました。彼は【感じる・繋がる・開く】をコンセプトにいろんなツアーを企画していて、高田夫妻同様、彼もまさに森人でした。洋美さんには、私がこれから大分へ帰り自給自足生活をするうえで、必要な情報や知恵、人を紹介していただきました。

話も尽きない中、透き通る美しい沢に着きました。さっそく冷たい水の中にザブーンと頭まで入り「気持ちぃ～」と至福のひと時に酔いしれます。沢の中に入りその水をゴクゴク飲めるなんて中々できる所はないですよね。テンションは上がっていてその気持ちよさに寒さは全く気になりません。更に大小様々な岩場を登り、小さな滝に打たれ童心に返ったようにはしゃぎました。そうしてカラダについてる余計なものがどんどん削ぎおとされていく、本来の自分に還っていくような感覚。背中に羽が生えたようにカラダは軽くなります。何だか生まれかわったような、清々しい気分のなか、美味しいお弁当と温かいスープをいただき、ココロもカラダも満たされたのでした。いよいよ西部林道最後の目的。洋美さんが大好きなおじいちゃんと呼んでいる木に逢いにいきます。もう少しで屋久島の旅が終わるんだなぁという寂しさが顔を出し始めたころ、洋美さんに着いたよ、と声をかけられます。私はキョロキョロぽかん？としていました。おじいちゃんの木？どれだろう？このヒョロヒョロした木かしら？

おじいちゃんの木

全然違う方向を見ていた私に洋美さんが指した先には…。あまりにも壮大で優しいオーラを放っている大きな大きな背の高いガジュマルでした。枝から気根を伸ばす姿は強い生命力を感じさせます。私のハートはすっかりおじいちゃんの樹に恋してしまいました。そして、最後の1人タイム。私はおじいちゃんの木の下に寝そべり、うっとり樹冠の方を見つめています。すっかりその美しさにのぼせていると、いつの間にか気持ちよく眠りについていました。心地よい眠りから目が覚め、起き上がると、おじいちゃんの根をキラキラと輝く土が守っていました。私は掌にのせ両手を擦り合わせキラキラした掌の美しさに魅了されました。次は指を唾液で湿らせ、土を撫で舌先に運び、ジョジョリガリガリ味わうという奇妙な行動に駆り立てられます。昔、テレビでみたある光景を思い出しました。どこかの国の女性がある日突然土を食べたくなったと言って道端の脇にある土を手で掴み食べ始める彼女。それからご飯は毎日、土。なんだか美味しそうに土を食べる彼女の事を私は屋久島にきてやっと少し理解できたようです（笑）この土はなんだか懐かしい味がします。

どこかで味わったことがある！これは何の味だろう？？私は洋美さんを呼び、土を掌にのせ食べてみて下さい！と。わかりますか？これ、龍角散のど飴の味しません？？そこで洋美さんまさかの龍角散って？えーーー？知らない人もいるんですね！とビックリ！（笑）私はそれからいろんな物を口にいれたくなりました。深く焦げたようなこげ茶色の葉はほうじ茶の味。黄色の葉は、ややフルーティな味わい、濃い緑の葉は少し苦味が強いけどカラダに良さそう！なんだか楽しい体験でした。そうして、おじいちゃんの下で子供のような安心感と無邪気な時を過ごし、辛い別れの時間がやってきます。また絶対逢いにくるからねと再会を胸に笑顔でサヨナラをしました…。

洋美さんは初めて会ったのに人見知りの私も自然体でいれるほど、どんな時も落ちついていて動じない方でした。世界中を旅してきていろんな経験をしてきたのでしょうね。自然にも動物にも人間にも優しい空気を漂わせていました。沢から上がってずっーと裸足で歩いていましたが、私も次回は裸足でもっといろんな所を歩いてみたいと思いました。

今回の旅では3人の森人を通して屋久島との深い繋がりを感じました。これから何度も訪れるであろう私のココロの拠り所。今回の旅で本来の自分自身に還ることができたことで、毎日が以前より、とても幸せです。自分が喜ぶ生き方に自信を持てるようになったからだと思います。奈央さん、健太さん、洋美さん、出逢ってくださった沢山の方々と屋久島の地に感謝します。

〈テワッカ　ユカ〉

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望は事務局まで。
TEL　0265-70-706
FAX　0265-70-799
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062（開催日）
URL http://www.koanet.co.jp